

2-6-2 の法則

パレートの法則というのがある。これは、全ての人々のうちの 2 割が、残りの 8 割の人の分も含めて稼いでいる。極端に言えば、2 割が働けば、残りは遊んでいてもいい（比喻の問題で実際に遊んでいるわけではない）ということの意味する。

一方働きアリの法則というのがあり、この場合は、全ての蟻が忙しそうに働いているように見えるが、実際にはそのうちの 2 割は働いているふりをしていて、実は遊んでいる。で、この働かないアリさんを横によけると、いままで一生懸命働いていた蟻の中から忙しそうにしているだけの蟻が出てくる。その割合が全体の 2 割である、ということを行っている。

いずれにせよ、優秀か怠惰かで差があることをいう。通常の世界では異なってくる。つまり、ピンからキリまでいる。

最初にボクが読んだのが、かの山本夏彦氏の話で、彼は言う。

「俗に 5 人に 1 人はカス」説である。・・・俗に 5 人に 1 人はカスという。どういうことかといえば、会社が新入社員を 5 人雇うとする。すると、その内訳をみれば、1 人は飛び切りよくできる。他の 4 人の分もカバーできる。2 人は並で、1 人は並よりやや劣る。問題は、最後の 1 人である。こいつが曲者で、仕事をしているようであるが実は邪魔をしている。

まわりはよくわかっている。わかっているのは、この本人だけ。さらに、自分は優秀だと勘違いをしている。(単なる誤解なのだが。)・・・ここは、割合でいえば働きアリの 20% と同じである。

会社としては、せめてボーナスなどで差をつけようとする、このカスが文句を言う。なぜなら、彼あるいは彼女は、自分は優秀だと信じているからである。その方が怖い。・・・ある人が言った、いない方がいい。なぜなら後片付け（尻拭い）をしないですむから。

政党にもいる。質問すればするほど相手の支持率が上がる。本人は、自分が優秀と思っているから始末が悪い。政権党になったとき、みなおしと称して必要なものまでつぶそうとする。日本は、技術立国だからコンピューターは、世界一でなければならない。2 番じゃだめなんですよ、5 人目のおねえちゃん！